

市原高校の「魅力ある高等学校づくりチャレンジ支援事業」

生命を大切に作る心を育む事業について

（平成17年度1学年総合的な学習の時間および校外ボランティアでの取り組み）

実施目的

- ・ 疑似体験等を通して、社会的弱者に対する「いたわりの心」を醸成する。
- ・ ボランティア活動などを通して社会奉仕の精神を養う。
- ・ 「ノーマライゼーション」について社会問題としての側面から考えさせる。
- ・ 活動を通して学んだことを自己の卒業後の進路（介護・医療系）と結びつけて考えたり、また、他のボランティア活動への関心を高める等、この活動だけで完結することなく、さらに発展できることを期待し実施する。

（1）総合的な学習の時間

1）実施目的：3学期のテーマである「福祉・ボランティア」では、高齢化社会の現状を講演や体験を通して理解し、現代社会における「共生」について考える

2）実施内容：

17年12月20日（学年全体・学年集会時）

「福祉・ボランティア」の導入として福祉読本の配付およびその後のLHRでの意見交換（日本福祉大学発行「第3回高校生福祉文化賞 エッセイコンテスト入賞作品集より「言葉がなくても」「ありがとうの力」）

18年1月12日（5限）（学年全体・各クラス毎）

講演：「ボランティア活動について」（市原市ボランティアセンター主任 鈴木暢一さん）

グループトーク：実際にボランティア活動に従事されている方々の体験談および質疑応答

- ・ 市原市ボランティア連絡協議会 上坂一三さん、菊谷 ひろ代さん、
- ・ ボランティアアドバイザー 西村美和子さん、阿部悦子さん）



（講演会：全体会）



（グループトーク：1年B組）



(グループトーク：1年C組)

～生徒の感想より～

「より具体的な話を聴けて良かったです。『親切でやったつもりでも迷惑になっていることがある』という話はとても印象的でした。リハビリや訓練でやっているのを手伝うにしてもその人のやるべきことを取り上げたことにしかならないので、よく考えてから行動しなければならないと反省させられました。」

### 18年1月19日(6限)(各クラス)

- ・ 講演およびグループトークについてのレポート作成
- ・ 老化現象とは？(プリント使用)
- ・ インスタントシニア体験での器具の装着方法の説明

### 18年1月26日(6限)(各クラス)

- ・ インスタントシニア体験：実際に様々な器具を装着して、体が思うように動かない状態を体験する。高齢者がどのような状態で生活しているのかを体験を通して理解する。



#### 【装着器具】

- (1) イヤーディフェンダー (聴覚の変化を体験する)
- (2) 腕用おもり (筋力の低下による腕の上げづらさを体験する)
- (3) ゴム手袋 (触覚の低下や指先が不器用になった状態を体験する)
- (4) 足首用おもり (片足におもりを装着し平衡感覚の変化を体験する)
- (5) ゴーグル (白内障による視覚の変化を体験する)
- (6) 腕用サポーター (腕の関節にサポーターを装着し、関節が曲がりにくくなった状態を体験する)
- (7) 膝用サポーター (関節が曲がりにくくなった場合の歩きづらさを体験する)

#### 【体験項目】

- (1) 普通での速度での歩行
- (2) 跳躍
- (3) マットの上での歩行
- (4) イスに腰掛ける
- (5) 紙を折る
- (6) 自分の氏名を紙に書く
- (7) 新聞を読んでみる
- (8) 箸を使って小さい物をつかむ



～生徒の感想より～

「老人がこんなにも動きづらいのかと実感できた。」

「自分も将来こんなふうになるのかと思うと不安になった。」

18年2月16日(5・6限)(各クラス)

- ・ 福祉施設訪問：高齢化社会の現状を理解し，入・通所者の方々とのふれあいを通して，現代社会における「共生」について考える。
- ・ 訪問先 老人保健施設 クレイン (A・D組)  
特別養護老人ホーム 清流園 (B組)  
特別養護老人ホーム 高滝神明の里 (C組) 3施設ともすべて市原市内  
\* A組・B組については2/23に実施



清流園にて(1年B組)  
入所者と歓談



清流園にて(1年B組)  
温かい会話



クレインにて(1年D組)  
入所・通所者の皆さんと一緒に歌を歌う



クレインにて(1年D組)  
車椅子体験

18年2月23日(6限)(各クラス)

- ・ 講義：高齢者を支える(プリントを使用して，高齢化社会の現状を知り，理解を深める)

18年3月3日(6限)(各クラス)

- ・ レポート作成(「福祉・ボランティアの分野」を通して，わかったこと・感じたこと・考えたことをまとめる)

～生徒の感想から～

「老人福祉施設を訪問して，介護がどういう仕事なのかがわかりました。訪問したときのお年寄りの笑顔を見て，介護する側の人がとても大変なのに，仕事を続けている理由がわかりました。クレインで働く人たちの姿を見て，「福祉・ボランティア」というものは思いやる気持ちが一番大事だなということが改めてわかりました。」

「すごい深い感情を持った。おじいさん・おばあさんなどがたくさんいて，歌を歌っている人やお風呂に入っているひと，ボールなどで遊んでいる姿がしっかりと自分の目に映りました。人は助け合っていかないと生きていけないんだと心から思いました。私たちよりも，今を一生懸命生きていて，笑顔ですごく楽しそうにしている人たちを見て，私も自分自身がしっかりと今を生きていかなければいけないんだと感じました。」

「老人と過ごす時は介護するというより介護人と老人が共生する，ということが大事だとわかりました。」

(2) 災害ボランティア体験(市原市ボランティアセンター主催ボランティア体験講座)

1) 実施目的: 日頃からの防災意識の啓発と、災害時に備えるために講義と体験を通して学ぶ。

2) 実施内容: 平成 17 年 11 月 26 日(土) 市原高校より希望者が参加

- ・ 災害ボランティア活動についての講義  
講師: 生活協同組合ちばコープ大規模災害対応担当 水島 重光さん
- ・ 防災についての講義  
講師: 市原市総務部防災課
- ・ 「災害時に役立つアウトドア体験」  
指導: 日本ボーイスカウト千葉県連盟 上総地区災害支援委員会
- ・ 「非常食体験～みんなで非常食を食べてみよう～」
- ・ 「災害疑似体験」地震体験・煙道体験・応急救護体験・簡易担架作り体験  
協力: 市原市消防局南総消防署
- ・ 他校(市原中央高等学校・市原市立姉崎東中学校)の生徒達との相互交流および意見交換



「災害時に役立つアウトドア体験」簡易トイレ製作



「災害時に役立つアウトドア体験」非常食の試食及び他校生徒との交流